



事務所 TOPIC

新サービス

橋梁調査を伴う特殊車両通行許可申請

これまで弊所ではあらゆるパターンの特殊車両通行許可申請業務を取り扱ってまいりました。この度、新たに「橋梁調査を伴う特殊車両通行許可申請」のサービスを開始しました。橋梁調査が必要な案件も、是非ご相談ください!

重量物を輸送する特殊車両通行許可申請の中には道路管理者から橋梁調査を求められるものがあります。このような特殊車両通行許可申請を行う場合、多くは橋梁調査会社を探して橋梁耐荷重強度検討書を作成してもらい、別途行政機関との打ち合わせが必要になります。その後、特殊車両通行許可申請は別途自社で行うまたは行政書士に依頼する必要があります。

弊所が新たにリリースしたサービスでは、橋梁調査会社および道路管理者との調整を弊所が行い、橋梁耐荷重強度検討書の作成および特殊車両通行許可申請をワンストップで提供することができます。

「橋梁調査を伴う特殊車両通行許可申請」の案件がある場合は是非、弊所にご相談ください。

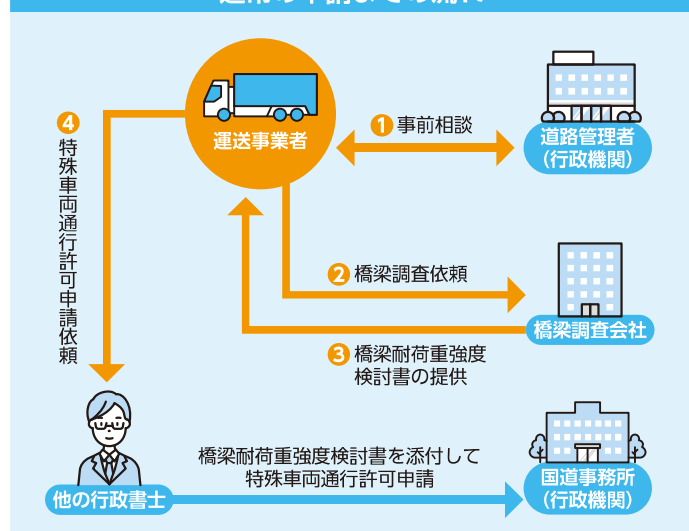
サービス料金

1 橋梁あたり
30 万円～

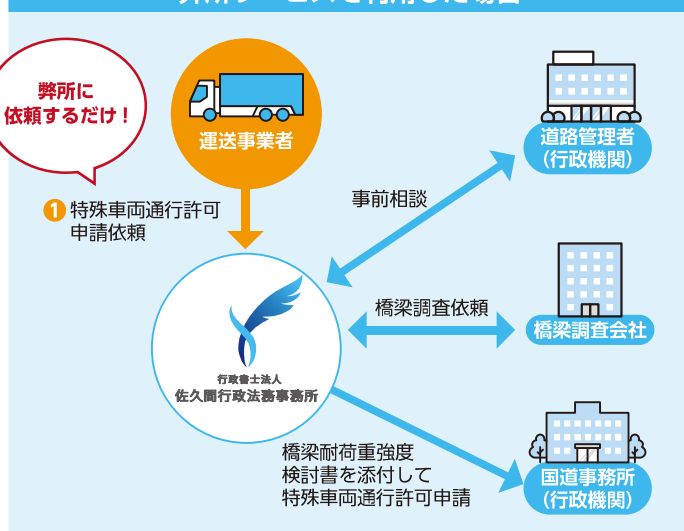
※橋の形状によって料金が変更
されます

※上記料金に特殊車両通行許可
申請の報酬を含みます

通常の申請までの流れ



弊所サービスを利用した場合



三重オフィス開設

弊所の新たな拠点となる三重オフィスを開設しました(2025年12月1日)。三重オフィスは車両登録業務をメインに活動します。三重に新たな拠点を構えることによって「三重ナンバー、鈴鹿ナンバー、四日市ナンバー、伊勢志摩ナンバー」の登録業務を行えるようになり、車両登録業務の幅を拡大することができました。

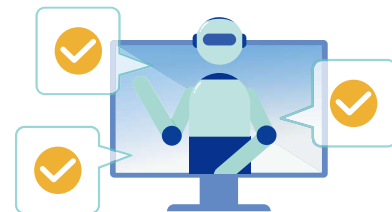
三重オフィス開設のきっかけは足立オフィスと同様に M&A です。人員は行政書士2名、スタッフ2名の4名体制。中古車販売業者における車両登録業務に強みがあり、お客様も同時に引継ぎをさせていただきました。今後は新車販売事業者、リース会社等に顧客ターゲットを広げ、業務を拡大していく計画です。三重県内における車両登録業務は是非、弊所までご用命ください。



三重オフィス(車両登録業務)
〒514-0034
三重県津市南丸之内8-41
TEL 059-273-5227
FAX 059-273-5228
info.mie@touroku-office.net



点呼制度の違い



点呼は原則対面で行う必要があります。しかし、ICT技術の発展により、さまざまな点呼の形が認められるようになりました。今回は「IT点呼」、「遠隔点呼」、「自動点呼（ロボット）」の違いについて確認していきましょう。

	IT点呼	遠隔点呼	自動点呼（ロボット）
Gマークの取得	必要	不要	不要
運輸支局への届出	必要	必要	必要
機器の条件	条件は緩い ●運転者の酒気帯び・疾病・疲労・睡眠不足等が随時確認できること ●アルコール測定の結果が自動で保存され、運行管理者が随時確認できること	IT点呼よりも厳しい 運行管理者等が、カメラやモニター等の画面を通じてドライバーの状況を確認できること（表情、全身、疲労 など）等	IT点呼よりも厳しい 国土交通省の認定を受けた機器※
実施可能時間	下記は連続16時間まで それ以外は24時間利用可能 ●A営業所の車庫～A営業所の他の車庫 ●A営業所～B営業所	24時間可能	24時間可能
点呼の実施者	運行管理者	運行管理者	自動点呼器機（ロボット） ただし「非常時には運行管理者等の対応が必要となる」条件付きでの運用。故障発生時や故障が疑われるときには運行管理者等が常に対応できる体制が必要。

※国土交通省より認定を受けた器機はこちらからご確認ください <https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001911215.pdf>

佐久間の私見！

業務前点呼・業務後点呼においても自動点呼が認められるようになった現在、自動点呼を活用しない理由はないと考えます。自動点呼はIT点呼や遠隔点呼の上位互換と考えてよいでしょう。

遠隔点呼や自動点呼の登場により、Gマーク取得の魅力が低くなったという話も聞こえてきますが、Gマーク取得におけるIT点呼の導入はあくまでもインセンティブの1つに過ぎません。安全教育訓練促進助成制度、運送保険等における保険料割引、基準緩和・特車許可の延長等のインセンティブはGマーク取得事業所ならではの魅力です。



万代シティバスセンターのカレー

先日、スカニアジャパン(株)北九州ディーラーの担当者とお会いする機会がありました。彼は相当な乗り物マニアであり、電車の発車メロディーから踏切における知識まで幅広く話をしてくださいました。会話の途中で私が今度新潟に出張に行く話をすると、「新潟に行くならば、バスセンターのカレーを食べなくては始まらない」とおっしゃるので、新潟県トラック協会研修会を行う前に例のバスセンターに赴き、実際にカレーを食べてきました。

バスセンター到着後にカレー屋を探しても見つかりません。それもそのはず「バスセンターのカレー」とはカレー屋ではなく、蕎麦屋が提供するカレーなのです(笑)。お昼の時間帯を外して到着したにもかかわらず、10名程度が並んで

いました。しかも面白いことに、蕎麦屋なのに皆が皆カレーを注文するじゃないですか(笑)。これほどまでに大人気のカレーに大きな期待を寄せ、並んでいるとあっという間に列の先頭に到達しました。そう、カレーの提供スピードが異常に早いのです…。注文口でカレーを注文し、受け取ってイートインスペースに行きました。

バスの待ち時間で食べるからなのか、立食スタイルです。バスセンターのカレーの特徴は第一にその色です。昔食べていたおこさまカレーのように黄色く、すこし甘い味を想像していました。

いざ口にカレーを運んでみると、ダシがしっかりと効いており、少しスパイシーなカレーでした。美味い！美味過ぎる！（埼玉県民には分かるネタ）。燃料を



ダシが効いて少しスパイシー

得たエンジンのように皿と口を行き来する手が高速回転しだすのを感じました。

我に返ったときには目の前にもうカレーがありません。食べ終わった後にあと1杯食べたくなる！そんな中毒性のあるカレーでした。皆さんも新潟へお越しの際は是非、バスセンターのカレーをご賞味ください。